

ダイオキシン汚染

チエルノブイリ原発事故で
みられるように放射能汚染の
恐怖は、その姿が見えない故に
恐しさを何倍化していると思
う。最近、急に浮上しだしたゴ
ミ清掃工場の焼却炉からでる
ダイオキシン汚染問題も、猛毒
の極微の粒子が見えざる姿で
空気中にバラ撒かれ拡散し、降
り注いだダイオキシンが食物
連鎖で濃縮された食べものか
ら体内にはいり蓄積されると
いう深刻さに心配がつのって
いるのである。

ダイオキシンの存在が衝撃
的に登場したのは、ベトナム戦
争の枯れ葉作戦の後遺症とみ
られる、ベト君ドク君の二重胎
児の奇形児が報じられてから
である。ダイオキシンはごく微
量でもDNAを変異させると
いわれ、単位がナノグラムやピコグラム
という一〇億分の一、一兆分の
1グラムなどが使われているよう
に、ごく微量でも猛毒で危険な
のである。新規のゴミ清掃工場

から下と極端に強化したことでの危険さのほどがわかる。大量的の原材料を輸入して付加価値の高いものを輸出する加工貿易の日本では、差引き勘定でゴミが狭い国土の中に大量に残る。さらに外貨減らしで食料を輸入し飽食の果て捨て起るシステムとなつていて。そのシステムを変えない限り焼却炉で燃やして減すしかなくダメオキシンがでてしまふ。ゴミ公害の象徴、ダイオキシン問題でゴミ清掃工場と周辺住民との対立が最近とみに深まっていて、問題はそこに限られたものではない。多數の焼却炉の高い煙突から吹き上げられ、空気中に広く拡散して汚染が広域に及ぶことこそが大きな問題なのである。塩素が入ったある有機化合物を八〇〇℃以下で燃焼させるとダイオキシンが発生するとの報告

があり、ゴミの分別を徹底すれば激減する。
筆者の住んでいる市では可燃、不燃、資源ゴミとプラスチック類の四種類に分別収集しているが、この問題ではリサイクルでゴミの減量に加えて、ダイオキシンができるやすいラップ類など、どの製品が危険なのかを公にして不買にするか不燃物として分別するなど、さらなる必要がある。きめの細かな情報公開とゴミ分別という手段のかかる痛みで負担を分かちあい、いかに多くの人が納得できるかが問題解決の成否の鍵を握っているのではなかろうか。

ヒマラヤの雪崩遭難

山歩きを楽しむ人たちにとって、世界の最高峰を眺めてのヒマラヤトレッキングは夢のような山旅である。そのルートを季節はずれの大雪と雪崩が襲った。チヨモランマ（エベレスト）- 南西のゴーキヨ峰近くで発生した雪崩に巻き込まれて日本人の中高年トレッキングンググループやシエルバなど33人が遭難し、カンチエンギンガ方面でも遭難者をだして、ヒマラヤ登山が一般に開放されて以来の最悪の遭難となつた。

この季節のヒマラヤは夏と冬のモンスーンの交代期の乾季にあたり天気は安定し、4000m付近でも積雪もなく気温も日中には一〇℃を超してヒマラヤトレッキングに最適の時期といわれている。ところが今年は偏西風の南下が遅れ、ベンガル湾で発生した台風の仲間であるサイクロンが、例年は早めに東に進路を変えてミャンマー方面に進むはずが西よりに

進んでインド大陸に向かつて
しまつた。

照的でいいか今年の天候が異常であつたかを物語ついて。濕った雪が急激に積もると、雪はなじまづに新雪の表層雪崩が底雪崩のようになり落ちて襲つて来る。夢のヒマラヤの山歩きが、想像外の自然の猛威のなしさで暗転してしまつたのは悲しみに耐えない。

付近の500hPaや上空3キロ付近の700hPa天気図で経過を追つてみると、サイクロンの北東側から湿った気流が北上してきたところに、たまたまヒマラ果、湿った気流が雨季の頃のようにヒマラヤ山脈に吹きつけ、乾季で好天が続きのあと天候は急激に悪化し、十一月九日から一〇日にかけてこの地方として季節はずれの大雪や大雨が短時間に降つてしまつた。高層の天気図から推定すると、高度4キロ付近が零度で雨と雪の別れ道なつて生死をわけた。標高1300メートル付近の首都クトマンズでは大雨だつたが、1000メートル級以上のトレッキングルートは氷点下数度以内のミゾレ混じりの湿った大雪となつた。ニユース映像を見ても新雪が2~3mどころによつては数mも積もつてゐるのがわかる。同時に放映された昨年の同時期の雪のない写真とあまりにも対